

平成 20 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

- 【研究テーマ】介護保険施設における看護職の配置と実施している医療ケアに関する現状と問題点
- 【研究目的】介護保険サービスを提供する施設のケア管理者やスタッフの実態や、入所者に提供されている医療ケアの現状から、看護介入の必要性や配置基準への示唆を得る。
- 【研究方法の概要】全国 1000 件の施設中、調査協力可能と回答を得た施設 192 施設、スタッフ 1749 名を対象に、2009 年 1 月末～2 月中旬の期間に、調査票を送付し個別返送用封筒にて回答を回収した。その結果、ケア責任者は 113 件(回収率 58.9%)、スタッフ 987 件(回収率 53.6%)の回答を得た。
- 【ケア責任者回答の概要】1. 属する施設：特養 30、老健 37、特定施設 24、グループホーム 22、合計 113 施設。2. 看護職の勤務数：常勤の看護職がいないのはグループホームのみ。看護職が准看護師のみは、特養 4 施設、老健 1 施設。特定施設は看護職勤務数の未回答 3 を含めると 7 施設。3. 定数と入所者数：全体として入所の定数を満たしていなかった。特養 91.7%、老健 95.7%、特定施設 84.3%、グループホーム 99.4%の入所率。4. 居室形態：特定施設とグループホームは個室が多く、特養・老健の個室化も進んでいる。5. 入所者の介護度：特養入所者 2159 名のうち、要介護 4 が 652 名、要介護 5 が 672 名で約 6 割、非該当者も 36 名みられた。老健入所者 3293 名のうち、要介護 3 が 862 名、要介護 4 が 875 名で約 5 割。特定施設入所者 1470 名のうち、要介護 5 が一番少なく 67 名、非該当・未申請 18 名。グループホーム入所者 306 名で、要介護 2・3・1・4・5 の順に多く非該当者は入所なし。6. 入所者の認知症の割合：特養入所者の約 5 割、老健入所者の約 6 割、特定施設入所者の約 3 割、グループホーム入所者の約 8 割であった。7. ケアを必要とする入所者数：どの施設も、多いケアは「内服管理」「内服投与」「オムツ使用」の順であった。「経鼻経管栄養」「気管内吸引」が多いのは特養。「胃瘻」が多いのは老健。「インシュリン注射」が多いのは老健、特定施設。8. 1 年間の看護職の動向(平成 20 年の 1 年間)：全体として定年退職者はわずか 5 名、中途退職者が 113 施設で 63 名。76 施設で看護職を募集も応募者がいない施設が 61 施設。全施設において 1 年間で経験者 59 名、新卒者 10 名を採用。看護職の代休取得が困難と答えた施設は約 3 割。産前産後休暇取得者 16 名、育児休暇取得者 16 名、資格取得目的の通学者 12 名。9. 現在の職員・勤務状況：どの施設も法定人数は満たしていることが伺われる。夜勤とオンコール体制に施設種類によって違いが見られた。特養では夜勤に看護職を配置する施設は少なく、オンコール体制が半数以上。介護福祉士・介護職員の夜勤が多く、介護福祉士有資格者のオンコール体制もほとんどの施設で見られた。老健では看護師 18・准看護師 26 で夜勤配置しているため、医師のオンコール体制が半数以上。特定施設では夜勤はほとんど介護職員で、看護職がオンコール体制をとっていた。グループホームからは夜勤やオンコール体制に関する回答が少なかった。10. 現在より多く希望する配置数：特養では約 3 割が医師の常勤を、看護職の約 2 倍を、介護職員の 1.5 倍を、リハ系職員の 2 倍の増員を希望。老健では医師の増員、看護職・介護職の増員と夜勤配置を求めている。特定施設では看護職・介護職の増員を求めているが、夜勤に看護職の増員希望はない。グループホームでは介護職の増員希望が多い。
- 【スタッフの回答の概要】1. 回答者の属性：男性 174 名、女性 798 名。職種別では看護職合計 380 名(看護師 210 名＋准看護師 170 名)、介護職合計 473 名(介護福祉士 415 名＋介護士 58 名)。現職勤務年数は 10 年未満が 8 割(5 年未満 476 名＋5～10 年未満 292 名)を占めた。回答者の職場別では特養 289 名、老健 510 名、特定施設 109 名、グループホーム 65 名であった。2. 医療ケアの実態：1) 特養の特徴：介護職の医療ケア実施の割合が多く見られ、特に 8 割「内服投与」・3 割「酸素療法」・「気管内吸引」が多く、「人工肛門ケア」・「胃瘻ケア」は看護職以外の職種の方が多く実施していた。2) 老健の特徴：看護職が多く医療ケアを実施していたが、介護職も 6 割が「内服投与」を、3 割が「人工肛門ケア」を実施していた。3) 特定施設の特徴：看護職よりも介護職が多く実施しているのは、「内服投与」。3. グループホームの特徴：看護職よりも介護職が多く実施しているのは、「内服投与」「内服管理」「創傷・褥瘡ケア」「バイタルサインチェック」「健康状態の観察」。4. 全体として：どの施設でも日常生活ケアは介護職が多く実施していたが、「食事介助」は看護職も多く実施していた。「家族への健康状態説明」も看護職 9 割が実施。「緊急時対応」「ターミナルケア」も看護職が多いが、グループホームだけは介護職が多く実施していた。5. 看護職の職務満足感：特養・老健どちらの看護職も半数以上が「看護職になってよかった」・「仕事が楽しい」・「同職種間の連携も良い」・「仕事に誇りがある」と答えた。しかし、「満足なケアを実施」・「施設内の協力が円満」「給与に満足」「福利厚生に満足」の項目は半数以上が「あまり思わない、思わない」と回答していた。
- 【まとめ】特養と老健においては重介護の入居者が多く医療ケアニーズも高い中、介護職も多くの医療ケアを実施していた。特養の夜勤帯の看護力不足や緊急時体制には課題が見られた。介護保険施設の看護職は看護の仕事に誇りを持ちつつも、日々実施しているケアに半数以上が満足できていない状態であった。